208
18
おとし
ばなし
菊寿の盃

国立国会図書館　菊寿盃 3巻 208-18

ガラス使用

国立国会図書館　菊寿盃 3巻 208-18

ガラス使用

ゆふをぬけいつたゞ又
ゆくあつ吟ものゞ絵ケ
ア汁がかつてこゝ余をそで
絵ゞのけあと卒ゞのア
ふといそして向ふまゞ
向ふとへしふをもつぬう
ムフ知てゐるのゞ
西屋上総た

十編

ゝやのかしさ私ふれよし
ひおまのえ知りのくの六
ちひまれとい出私名ハ
えありてなの十編とこ
ふやふをを十編とつける
ゝれなんありのごとくろ
ものごとくこそいとて油
とをいさとすくよ生の内
そくもつぬそうこそ
ま歩れいねありよ
そいこるもよ仙ろ

これいちり

国立国会図書館　菊寿盃 3巻 208-18

ガラス使用

百人一首

おれも百人もそろもむと
もまつちやづくしてさるっこそうさんいむひつて
いなつくとこそたおもらるよ
おれがもつぬことのかるめの
ムスメをんのうるさつくめまへの
うらをなをつかつくめまへの
うことをのてそんなこいすつ
そ下てるもう「おさのさの
「えんけ「ばびいい
「なていでと
「ふんるら借上遍恐

十方庵

えるる孫

うんざのつるものひる
孫そうこころろがな
今日まてそうさ記と
ねうやりくめをさ面
してそうの面さも
おうこさん

まへ
おさざの
さんざう

国立国会図書館　　菊寿盃 3巻 208-18

ガラス使用

国立国会図書館　菊寿盃 3巻 208-18

ガラス使用

国立国会図書館　菊寿盃 3巻 208-18

ガラス使用

国立国会図書館　菊寿盃 3巻 208-18

ガラス使用

上戸

国立国会図書館　菊寿盃 3巻 208-18

ガラス使用

すさまじい
さまあいかうすさまじの
すきやうひことかうまげ
うこひをやー茶のやまり
まうのうひこと三みやん三人
ばひいかうういつりのがけ
もだいすあさて又くいわ
るれいりも油さるるやん
ろへろのかるのよろうべば
さうのりのへるひ「これ
もちつといきういふみ
「するねとういさ二ろ
なる

「かうさうひて
へ　ふとの
高麦の

最乖

うくたるよろる人のい
事うを百万石とつ
そおいて思人うり合
ている私つのおとこさま
りけるこいりや百万石の
さてとていこのおをこさま
てそおまいこういうさま
を百万石とあつやる
さこのそのく事るしそふ
てつをうされてかふ
といいで

へへ
ふるとなぐいと
ふことだや

国立国会図書館　菊寿盃 3巻 208-18

ガラス使用

途中

今えうのおもちゆくつゝ金
つゝゆくむふ二そうのの
おてこのさのひさてくなり
ゝさおおひさうこそ物
とつゝれをこりしいどうさら
うつゝて、おのがこさうね
こさゝてこぞりまんそうこ
うくいみるものさささ
のそうのいさ忘れてござ
いまん「ふてさて大ぶんお
ゝこさーやりさまおけつへ
とちとものて下さま
うぜてこさりまん
よこよを
うらまん

七

さんの
のすのお、ねのさうさ
うのやうのさこぞ
ふそ仕のこたを
こりとの孫ひさは
人こさの忘さうのいま
うねんもの
さくいこさこひ
こりとのお、どを
二つこつのう
それてうさも
おす
ことぶや

国立国会図書館　菊寿盃 3巻 208-18

ガラス使用

なん人
半むらのひんのよいおやう
ゐうまやの十らくをさして
このさまのうとうとしてわかい
おとさまをアてごらんじて
てあてこれさうへ万人とます
すがのことそうりやうり
のそのへかえさわをさ
れなりてふこそりまよ
旨のいれまのうまいさと
るのおとこがおとこうそ
そさりのをてたこれなそう
ざ佐りよりしごうなけま
すとこうごそのかうな
をなうのもそーへひがる
そこぞりなとうへ
なんこん

そうごん
おごへのこるひるまる
よ二のさんをもへ
よびおりてまおごへび
ヤイこれこれごそんのと
ろうのごやなのこととこの
二とえ合そてるのや
とへえるなし
なの二とこの二で
なん二が
二ご

国立国会図書館　菊寿盃 3巻 208-18

ガラス使用

国立国会図書館　菊寿盃 3巻 208-18

ガラス使用

国立国会図書館　菊寿盃 3巻 208-18

ガラス使用

くらはしのぐ繩と
笈おうえもおも大
きさみなぐらもあ
ほとんどこと也
わらつと
アノくらも
ほど

猶ふみ遣ごとくかゝみ
ら三日二百十日はまあなん
のろこそうてまぶいたり
よくもこわくこのめ
さてぐちくめこのさ
めあこそうこそのある
日うらをまとよかう
それ来うら二百十日めのうき
三ヶ日そとめあそれぐは
四百六日ためおハテ
それもおん
なぐみさ

国立国会図書館　菊寿盃 3巻 208-18

ガラス使用

国立国会図書館　菊寿盃 3巻 208-18

ガラス使用

国立国会図書館　菊寿盃 3巻 208-18

ガラス使用

ほんが
ほんぼの訳(わけ)をよく有(あり)親(おや)に
ひととこともうらくく今(いま)まで
ハ氏(うじ)をまでハろんの何(なに)さ
おまへ氏(うじ)をまさ二エおも
い

氏(うじ)をまつと
おもつた

○ぶせう髪(かみ)

ほんまりちつとしてで
ハアとおもくいざくこちらと
すめふさそこいと姐(ねえ)が
親(おや)もんがら出(で)くだいる
ねそこと月がござりま
せ二月がねるそふいろ
日と有(あ)りがちやうどそ
こらこねろふのりく
ハ大名(だいみやう)ろ通(とを)り飯(めし)す
下(さ)りやりつて
奉(たてまつ)こんを
れ

国立国会図書館　菊寿盃 3巻 208-18

ガラス使用

208
18

こいろ
ひとつ煙(けむ)のさみせん
箱(はこ)をぬうにぢるい
嵐(あらし)ざざらく猫(ねこ)の声(こえ)あ
んやりわさを回(まわ)るまく
藤(ふぢ)ねずみ二ヤ二ヤといふと
柳(やなぎ)の嵐(あらし)が十ヤことちらまで
つくづくごうぬこゝは猫(ねこ)仕(し)
掛(かけ)とも有(あ)りの嵐(あらし)が
おめこ(ナセ)そこに居(い)る
ぞい一ぱいの嵐(あらし)がつくづくの白
こいろを
写(うつ)や

国立国会図書館　菊寿盃 3巻 208-18

ガラス使用

208
18

国立国会図書館　菊寿盃 3巻 208-18

ガラス使用

国立国会図書館　　菊寿盃 3巻 208-18

ガラス使用